

石川県かほく市 道の駅「高松」(高松 SA) 再整備事業 ～「道の駅」を核にした安全安心・地域活性化について～

かほく市 産業建設部 産業振興課

1. 道の駅「高松」の歴史

道の駅「高松」は、能登有料道路（自動車専用道路）の能登半島の玄関口に位置する高松 SA のレストハウスとして昭和 60 年 7 月にオープンしました。その後、日本海に沈む夕日が見られる風光明媚な SA であったことから、平成 5 年 4 月に「道の駅」に登録され、輪島市の千枚田ポケットパークとともに県内で最も歴史のある「道の駅」です。

道の駅「高松」は、日本で 1,004 箇所ある道の駅の中でも 13 箇所しかない、全国でも非常に珍しい SA・PA 運営型という特徴のある「道の駅」です。

能登有料道路は、愛称を新たに「ふるさと紀行『のと里山海道』」として、本年 3 月 31 日に無料化されており、能登と金沢を結ぶ大動脈としての役割を担うことになります。

かほく市は、このタイミングに合わせ、道路休憩施設である道の駅「高松」の再整備を図ることで、地域防災力の向上と地域の活性化を図るため拠点施設としての整備を行いました。



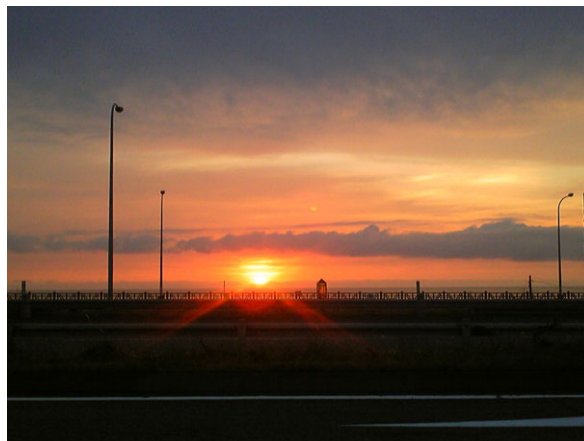
リニューアルしたレストハウス「里山館」

◆高松 SA（サービスエリア）年表

昭和 60 年 7 月 12 日	高松 SA オープン
平成 5 年 4 月	道の駅に登録（第 1 回登録）
平成 24 年 9 月	道の駅高松 物販施設及びトイレ改修工事 着工
平成 25 年 3 月 31 日	ふるさと紀行「のと里山海道」無料化開始 道の駅高松 物販施設及びトイレ リニューアルオープン（レストハウス「里山館」「里海館」）
平成 25 年 4 月	道の駅高松 外構工事 着手
平成 26 年 3 月	道の駅高松 整備工事 完了予定



ふるさと紀行『のと里山海道』



道の駅「高松」から望む夕日

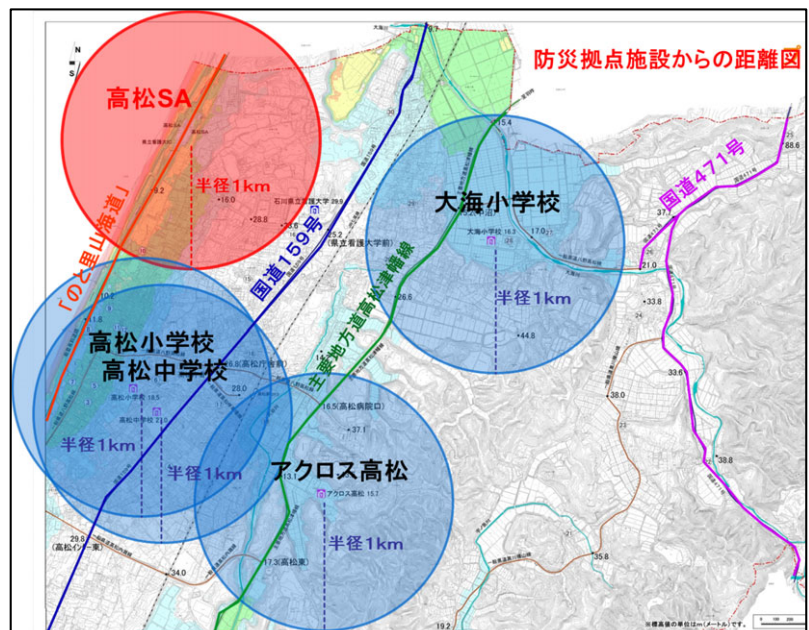
2. 道の駅「高松」の安全安心に向けた整備工事について

「道の駅」は東日本大震災等の災害時において円滑な応急活動を行うための重要な役割を果たしたことを踏まえ、かほく市は石川県が指定する緊急輸送道路（1次）である「のと里山海道」の沿線にある道の駅「高松」を地域防災計画の「拠点施設」として位置付けました。

また、市の北部地域には防災拠点施設が無かったことから、「のと里山海道」の利用者だけではなく、近隣の住民の避難場所としても活用することで、安全で安心なまちづくりにつながることから、道の駅「高松」の再整備を行いました。



位置図（石川県かほく市）



地域防災計画「拠点施設」位置図

具体的には、自衛隊等の応援車両が停車することが想定されるための駐車場スペースの拡大、多目的広場を作ることで炊き出し等が行なえるスペースの確保を行います。

同時に近隣の住民の避難者のための駐車場の整備、避難者の中には身体の不自由な方もいますので、トイレをバリアフリー化し、オストメイト設備を整備することで、災害弱者に対する配慮した計画とし、より安全に多くの避難者の受け入れが可能となっています。



バリアフリー化したトイレの外観



オストメイト設備

3. 道の駅「高松」の地域活性化への効果について

道の駅「高松」の大きな特徴は、石川県立看護大・商工会・行政が連携して、道の駅の活用拡大及び活性化を図っているところです。石川県立看護大学の学生が柔軟な発想でアイデアを出し、商工会が実践し、行政が支援していく体制を構築しています。

特に、地元の「かほっくり」というさつまいもを使った、「かほっくりソフト」、「かほくコロッケ」、「かほっくり棒」は人気商品となっています。



かほっくりソフト



かほくコロッケ



かほっくり棒

その他、地場産品等の情報発信、販売を行っています。なかでもかほく市は繊維で有名なまちであり、多くのゴム入り織物をはじめとする繊維製品を販売しています。ほかにも地元で獲れるお米・野菜・果物等も設置販売しています。とりわけ日本一高級なブドウで有名な「ルビーロマン」を販売している道の駅は当施設のみと自負しております。

4. おわりに

このように「のと里山海道」の無料化を契機とし、道の駅「高松」を核とした地元との連携による大幅な売上増の達成や管理施設のリニューアルによって、安全安心の向上や地域活性化を図ることができました。



道の駅「高松」の賑わい



日本一高級なブドウ「ルビーロマン」